

研究協力者 (株)東京都教職員互助会 三楽病院産婦人科 木村好秀

はじめに

わが国では戦後、昭和23年に優生保護法が制定されて以来、一定の適応下で合法的に人工妊娠中絶が可能となった。そして、それによる人工妊娠中絶の施行は、その適応の寛大さに世界各国から非難の声もきかれ、日本は墮胎天国であるとの汚名で呼ばれたこともある。事実、わが国では戦後の人口増加と食料難、社会・経済の復興のために、いわば人口の間引き的に人工妊娠中絶が実施され、過剰な人口増加の抑制策になったことも確かである。一方、世界的にもその後急速に人口爆発、地球環境の悪化、女性の社会的地位の向上、ウーマンリブ、価値観の変化などが進行し、現在、諸外国ではわが国の優生保護法の適応をさらに拡大しているところもある。

近年、わが国の少産高齢化社会の進行は、21世紀にむけての産業・経済・社会における活力の低下が危惧され、適切な出生数の回復と維持による急速な人口減少の停止が求められている。

ところで、わが国の人工妊娠中絶数はここ数年来対出生数に対してほぼ一定であり、約1:2.7に推移している。これはわが国における家族計画や受胎調節のなかに、人工妊娠中絶がその方法論の一部として取り込まれていることを示唆しているものと思われる。

そこで今回、人工妊娠中絶を希望したものの社会医学的背景を検討し、人工妊娠中絶の問題点を検討したので報告する。

I. 調査対象と方法

調査対象は、平成7年8月より7ヵ月間に当院ならびに他の関連8施設で、人工妊娠中絶を希望しその適応があると判断された女性104例である。

調査方法は、筆者が作成した社会医学的な質問事項73問からなるアンケート調査表に、自己記入式で協力を得たものである。

調査成績の集計に際し妊娠12週未満の初期中絶例と、妊娠12週以降の中期中絶例とに分け、その社会医学的背景について検討を行なった。

II. 調査成績

1. 対象の背景

1) 年齢と未・既婚別

平均27.9±7.5歳で、未婚54例23.6±5.4歳、既婚48例33.1±6.4、不明2例20.5±1.5歳であった。初期中絶55例29.5±8.1歳で、未婚22例23.3±6.1歳、既婚33例33.6±6.4歳であった。また、中期中絶48例26.2±6.5歳で、未婚31例23.8±4.8歳、既婚15例31.8±6.1歳であった。

2) 職業

初期中絶では、会社員30.9%、主婦16.4%、なし9.1%などであり、中期中絶では会社員20.8%、学生、職業なしがそれぞれ12.5%などであった。

3) 中絶の既往

中絶既往ありは37.5%、なしは58.3%で、初期中絶と中期中絶とに差はみられなかった。なお中絶回数は、初期中絶は1回55.0%、2回20.0%、無回答25.0%に対して、中期中絶では1回50.0%、2回16.7%、3回22.2%、6回5.6%となり、中絶回数が多くみられた。

4) 中絶時の妊娠週数

初期中絶7.7±1.7週で、未・既婚例で差はなく、中期中絶15.6±2.8週で未・既婚例で差は見られなかった。なお、未婚の平均妊娠週数は12.0±4.5週、既婚では10.5±4.5週となり、未婚女性では中絶時期が遅延する傾向が見られた。

年齢を5歳区分で妊娠週数の分布を検討すると、10歳代平均12.8±5.1週、20歳代前半12.4±4.6週、30歳代前半10.2±3.9週、40歳以上8.8±2.8週となり、若年者に妊娠週数の増加傾向がみられた。

2. 中絶に対する意識

1) 人工妊娠中絶の決定者

今回の人工妊娠中絶の決定は、初期中絶ではパートナーと相談してが最も多く61.5%を占め、次いで本人40.4%、親のすすめ5.8%の順であり、中期中絶でも同じ順位になったものの、親のすすめが17.4%と著しく増加し、両者の事情の相違を示していた。

2) 人工妊娠中絶の理由

人工妊娠中絶にはリスクを伴うことを理解したうえで、その理由を問うと、初期中絶では希望しない妊娠37.0%、経済的理由27.8%、健康上の理由18.5%、結婚前の妊娠13.0%の順であり、中期中絶では経済的理由41.7%、希望しない妊娠29.2%、結婚前の妊娠25.0% 避妊の失敗、相手の反対12.5%の順で、初期中絶との間にやゝ相違がみられた。

3) 中絶時の危険性の認知

人工妊娠中絶時にはしばしばトラブルが生ずるが、それを認知しているかについては、初期中絶80.0%、未婚63.6%、既婚90.9%。中期中絶77.1%、未婚74.2%、既婚86.7%でトラブルの生じる可能性の高い後者にむしろ認識が低く、しかもいずれも未婚者に人工妊娠中絶時の危険性の認知の低いことを示していた。

4) 人工妊娠中絶の適応など

初期中絶は、法律に定められた理由と限られた妊娠週数までなら未婚40.9%、既婚60.6%といずれも最も多く、次いで限られた週数がそれぞれ36.4%、24.2%にみられた。

5) 人工妊娠中絶の受けられる妊娠週数

初期中絶では21週までと認識しているものが65.5%、中期中絶では54.2%であった。初期中絶では21週以後も22週まで3.6%、23週まで9.1%、24週まで1.8%と続き、29週までが1.8%にみられた。また、中期中絶では22週まで18.8%、23週まで6.3%、24週まで10.4%、26週まで2.1%と続き、中期中絶では22週以降も人工妊娠中絶が可能と認識している頻度が高くみ

られた。

3. 避妊法に対する意識

1) 避妊法の変化

(1) 初期中絶例

従来の避妊法は、コンドーム80.0%、膈外射精27.3%、オギノ式12.7%が上位3つの方法で、ペッサリー、殺精子剤、IUDはいずれも1.8%と低率であった。今回、妊娠に至った避妊法については、コンドームと膈外射精27.3%、オギノ式10.9%、殺精子剤とピル1.8%、未実行3.6%などであった。

今回の中絶を契機に今後の避妊法は、コンドーム65.5%、2つ以上の避妊法の併用20.0%、ピル14.5%、オギノ式と殺精子剤7.3%、IUD5.5%などの順となり、より確実な避妊法への変化が伺われた。

(2) 中期中絶例

従来の避妊法は、コンドーム77.1%、膈外射精47.9%、オギノ式6.3%、殺精子剤、ピル、IUDがいずれも2.1%であった。今回、妊娠に至った避妊法は、膈外射精31.3%、コンドーム27.1%、未実行4.2%などとなり、いずれも不確実な避妊方法によっていた。

今後の避妊法は、コンドーム62.5%、2つ以上の避妊法の併用25.0%、オギノ式16.7%、膈外射精8.3%、ピル、IUD、ペッサリーがそれぞれ2.1%となった。

2) 今回妊娠時の避妊に対する評価

(1) 初期中絶例

パートナーの避妊に対する協力度は、協力的25.5%、非協力的43.6%で未・既婚別に有意差はなかった。今回の妊娠で、避妊は絶対大丈夫と思っていた27.3%で、未婚22.7%、既婚30.3%であり、いずれも不安を抱いていたことがわかる。

避妊器具の使用に誤りがあったは18.2%で、中期中絶例より有意に多くみられた。感情にまかせてしまったは49.1%にみられ、中期中絶例より有意に多く未婚54.5%、既婚45.5%にみられ、避妊の困難性が伺われた。

(2) 中期中絶例

パートナーの避妊に対する協力度は協力的29.2%、非協力的54.2%で後者が高く、初期中絶より非協力的なパートナーが多い傾向がみられた。そして非協力的は未婚51.6%、既婚60.0%で後者に有意に多くみられた。

今回の妊娠で避妊に自信があったものは20.8%で、未婚19.4%、既婚20.0%であった。

避妊器具の使用に誤りがあった10.4%で、初期中絶より有意に低かった。

感情に任せてしまったは35.4%で初期中絶より有意に低く、未婚41.9%、既婚26.7%で、やはり未婚に有意に多くみられ、感情のコントロールが難しいことを物語っていた。

3) 避妊法の認識度

オギノ式の理解度は、初期中絶は正解が50.9%で、未婚54.5%、既婚48.5%であり、中期中絶では64.6%が正解で、未婚67.7%、既婚66.7%で、初期中絶では約半数が誤って認

議していることを示していた。

BBTの測定を実施しているのは、初期中絶7.3%、中期中絶8.3%で、未婚・既婚別にも差はなくその実行率は低いことが明らかになった。

また、避妊に対する知識と自信があったと答えたのは、初期中絶43.6%で、中期中絶に対し有意に高く、未婚は18.2%、既婚60.6%で後者に有意に高く見られた。中期中絶では20.8%と有意に低く、未婚22.6%、既婚20.0%で著しく低率であった。

4) 経口避妊薬に対する意識

初期中絶ではピルに否定的な意見として、認可しなくてよい10.9%、副作用があるので使いたくない36.4%にみられ、肯定的意見として認可すべきである34.5%、認可されれば使いたいと25.5%にみられた。一方、中期中絶では、認可しなくてよい6.3%、副作用があるので使いたくない60.4%を占め、ピルの使用には保守的な意見が多くみられた。未婚では初期・中期中絶とも副作用があるので使いたくないがそれぞれ40.9%、51.6%、既婚でも副作用があるので使いたくないが同様に33.3%、80.0%にみられ高率で消極的な考えが多い。

5) コンドーム使用の理由

初期中絶は簡単63.6%、避妊効果が高い32.7%、安価27.3%の順であり、中期中絶でも同様に75.0%、37.5%、29.2%の順で、未既婚別にも全く同様の傾向がみられ、わが国の国情にマッチしていることがわかった。

6) 避妊器具の購入

初期中絶では薬局70.9%、自動販売機5.5%、通信販売3.6%の順であり、中期中絶ではそれぞれ66.7%、2.1%、0%、コンビニ4.2%などであった。

4. 人工妊娠中絶に至る経過

1) 妊娠の認知

初期中絶では、無月経92.7%、つわり18.2%、身体のだるさ10.9%、避妊しない性交渉5.5%の順であり、中期中絶ではそれぞれ87.5%、25.0%、18.8%、6.3%の順となり、中期中絶で身体のだるさが多くみられた。

2) 妊娠に気づいて最初に思い浮かんだこと

初期中絶では、困った58.2%、信じられない27.3%、嬉しい7.3%、怖い5.5%などの順であり、中期中絶ではそれぞれ41.7%、27.1%、22.9%、4.2%などであり、中期中絶では嬉しいとっていて中絶に至るケースの多いことが明らかになった。

3) 人工妊娠中絶を決めるときパートナー以外の誰の意見を参考にしたか

初期中絶では、友人36.4%、親18.2%、兄弟姉妹12.7%、誰もいない10.9%などとなり、中期中絶では、親が最も多く41.7%、友人31.3%、兄弟姉妹10.4%、誰もいない6.3%の順となり、相談相手がやゝ異なっていた。

4) 妊娠したかも知れないと思ってから行なったこと

初期中絶では、パートナーに相談した67.3%、市販の妊娠診断薬でチェックした65.5%、パートナー以外の人に相談した36.4%、月経不順で月経が遅れているだけと思った、受診

するための時間の都合をつけていたがそれぞれ14.5%の順であった。中期中絶では、それぞれ64.6%、62.5%、20.8%であったが、月経不順で月経が遅れているだけと思ったが31.3%と著しく高率にみられた。

具体的に誰に相談したかは、初期中絶では友人80.0%、母5.0%、姉妹5.0%であり、中期中絶では友人80.0%、姉妹20.2%で、いずれも友人が多かった。

5) 今回の妊娠で「産もうか」と考えたことがあるか

初期中絶では、産みたいとは思った30.9%、ちょっと思った、全くないがそれぞれ29.1%、産むことを真剣に考えた14.5%の順であった。一方、中期中絶では産みたいと思った、産むつもりだったがそれぞれ31.3%、ちょっと思った25.0%、産むことを真剣に考えた10.4%の順で、中期中絶では本当は産むつもりだったが31.3%もあり、初期中絶とにかなりの相違がみられた。

6) 産むつもりだった場合に何がきっかけで産むのを止めたのか

初期中絶では、胎児異常が心配になった9.1%、自分または夫の仕事の都合と健康上の問題がそれぞれ7.3%であり、パートナーと別れることになった、急に経済状態が悪化した3.6%などの順であった。

中期中絶では、胎児異常が心配になった16.7%、急に経済状態が悪化した、自分または夫の仕事の都合がそれぞれ12.5%、胎児異常が明らかになった、夫の気持ちが変わった、家族が病気になったが4.2%ずつみられ、胎児異常、経済問題、離婚などの問題が高い頻度でみられた。

7) 妊娠判定を受けた病・医院

初期中絶では、中絶を受けた病・医院83.6%、他医院12.7%であったが、中期中絶ではそれぞれ41.7%、54.2%となり、中期中絶では妊娠の診断と処置が有意に異なった施設で行なわれていることが明らかになった。

8) 病・医院を変えた理由

初期中絶では、病院の評判42.9%、中絶をしない病院28.6%、中絶は出来ない、家に近いからがそれぞれ14.3%であった。

中期中絶では、中絶は出来ないが53.8%と著しく高く、中絶をしない病院、病院の評判がそれぞれ11.5%であった。これは中期中絶では最低数日間の入院が必要となり、昨今、診療所では入院患者を取り扱わない施設が増加しているためと思われた。

5. 人工妊娠中絶と医学的、社会的、ならびに経済的な諸問題

1) 月経周期

初期中絶では70.9%が順調であったが、中期中絶では47.9%と有意に低くなり、妊娠成立の認知の遅れと関係があると思われた。

2) 性感染症の心配

初期中絶では63.6%が、中期中絶では66.7%が心配ないと答え、いずれも既婚者が有意に多くみられた。

3) セックスの積極性

初期中絶では20.0%が肯定し、未婚36.4%、既婚9.1%で未婚者に有意に多くみられた。中期中絶では16.0%で、未婚19.4%、既婚13.3%であった。

4) 自分がまさか妊娠すると思わなかった

初期中絶では47.3%がまさか妊娠しないと思っており、未婚72.7%、既婚30.3%であった。中期中絶は54.2%で、未婚は58.1%、既婚40.0%で、いずれも未婚者に有意にまさか妊娠すると思っていないという油断がみられた。

5) 妊娠に気づいた時、相談できる人がいなかった

初期中絶では「いいえ」87.3%で、未婚100%、既婚78.8%であった。中期中絶では「いいえ」79.2%で、未婚74.2%、既婚86.7%で、中期中絶では有意に相談出来る人が少なく、しかもそれは未婚者に有意に多いことが明らかとなり、適切な相談者の必要性が示唆された。

6) 妊娠を知らせたくなかった

(1) 親に対して

初期中絶では65.5%が親に知られたいとし、未婚86.4%、既婚51.5%であった。中期中絶では45.8%で、未婚64.5%で、既婚0%となり、初期中絶と未婚者にいずれも有意差がみられ、親へ妊娠が知られるのを警戒していた。

(2) 学校に

初期中絶では21.8%が学校に知られたいとし、未婚36.4%、既婚12.1%であった。中期中絶では12.5%で、未婚16.1%、既婚6.7%となり初期中絶と未婚者にいずれも有意差がみられ、学校に知られることは深刻な問題であると思われた。

(3) 職場に

初期中絶では47.3%が職場に知られたいとし、未婚68.2%、既婚33.3%であった。中期中絶では54.2%で、未婚61.3%、既婚33.3%で、いずれも未婚者が有意に多く、現在、女性の就業率が高く職場での問題が伺える。

7) 自分は産みたかったが反対している人を説得しようと努力していた

初期中絶では10.9%が努力したとし、未婚18.2%、既婚6.1%であった。中期中絶では27.1%が努力したとし、未婚38.7%、既婚6.7%であった。中期中絶では有意に努力しており、しかもいずれも未婚者が努力していたことが明らかになった。そして反対していたのは初期妊娠ではパートナー66.7%、親33.3%であり、中期中絶ではパートナーと親がそれぞれ46.2%にみられた。そして未婚では親が、既婚ではパートナーが有意に反対していた。

8) 少し位中絶手術が遅れても大したことはない

中期手術が遅延すれば入院日数、費用が増加するが、中期中絶の未婚者6.5%にこれを認め有意差がみられた。

9) パートナーとのコミュニケーションができない

初期中絶では、未婚者に有意差はなかったが、中期中絶では未婚32.3%、既婚6.7%で有意差があり、未婚者にパートナーとのコミュニケーションがとりにくいことが明らかにな

った。

10) 中絶費用は全部一人で用意した

初期中絶では9.1%が一人で用意したとし、未婚4.5%、既婚12.1%であった。中期中絶では20.8%が一人で用意し、未婚32.3%、既婚0%となって、初期中絶では未婚者もパートナーが負担するが、中期中絶では未婚者は自分で費用を負担しており、身体的にも経済的にも負担が大きいことが明らかになった。

11) 中絶費用は自分とパートナーだけで用意した

初期中絶では70.9%が二人だけで用意し、未婚68.2%、既婚72.7%であった。一方、中期中絶では47.9%のみが二人だけで用意し、未婚32.3%、既婚73.3%となって、それらはいずれも有意に既婚者に多くみられた。

まとめ

わが国の人工妊娠中絶の総数は年々減少傾向にはあるが、人工妊娠中絶数と出生数との関係は長年に亘り約1:2.7に推移し、両者の相対的關係は一定の比率を保っている。平成5年の人工妊娠中絶数は386,807件であり、そのうち妊娠12週以上の中期中絶数23,302件で16.6%を占め、これ亦、この比率はこゝ数年来ほぼ一定のまま推移しているのが現状である。

今回、平成7年8月より7ヵ月間、当院ならびに他の8施設で、人工妊娠中絶を希望した104例に前方視的にアンケート調査を行なった。中期中絶は未婚者に多く、しかも既往中絶回数も多い。そして若年ほど中絶時の妊娠週数はすすんでいる傾向がみられた。

中絶理由は、結婚前の妊娠を含めた希望しない妊娠、経済的理由、避妊の失敗で、もともと出産の希望や予定のなかったものである。しかも避妊法はわが国の伝統的とも云うべきコンドーム、膣外射精、オギノ式などの不確実なものが主なものであり、経口避妊薬については正しい情報の不足、副作用の強調などから許可や使用に否定的な意見が多い。そして、中期中絶では月経不順、受診の遅延、相談者の不在などをはじめ、未婚者にセックスが積極的、まさか妊娠するとは思わなかったや人工妊娠中絶の費用も大きな負担になっていることなどが明らかになった。

この様な現実をふまえ、また性行動の活発化している昨今では、もはや単なる性教育の総論に終始することなく、義務教育過程をはじめ、保健機関のなかで個別的な具体的で適切な避妊法の教育指導を実施し、希望しない妊娠を防止し、その帰結としての人工妊娠中絶を減少させていくことが必要である。そして全ての妊娠は希望された児としてこの世に生命を享受することが、今後の理想的な家族計画に必要な課題である。今後さらに例数を重ねて、希望しない妊娠の防止に対する具体的方策を見いだしていきたい。

対象患者の未・既婚別 平均年齢

未婚女性	54	51.9	23.6 ± 5.4	(16-39)
既婚女性	48	46.2	33.1 ± 6.4	(17-47)
不明	2	1.9	20.5 ± 1.5	(19-22)
総計	104	100.0	27.9 ± 7.5	(16-47)

	症例数	(%)	平均年齢±SD	最少最大
初期中絶	55	53.4	29.5 ± 8.1	(16-47)
未婚女性	22	21.4	23.3 ± 6.1	(16-38)
既婚女性	33	32.0	33.6 ± 6.4	(17-47)
中期中絶	48	46.6	26.2 ± 6.5	(16-41)
未婚女性	31	30.1	23.8 ± 4.8	(16-39)
既婚女性	15	14.6	31.8 ± 6.1	(18-41)
不明	2	1.9	20.5 ± 1.5	(19-22)
総計	103	100.0	(妊娠週数不明 1例)	

中絶経験者

	無し	有り	無回答	総計
初期中絶	63.6	36.4	0.0	100.0
中期中絶	58.3	37.5	4.2	100.0
総計	60.6	37.5	1.9	100.0

	1回	2回	3回	6回	無回答
初期中絶	55.0	20.0	0.0	0.0	25.0
中期中絶	50.0	16.7	22.2	5.6	0.0
総計	53.8	17.9	10.3	2.6	12.8

平均妊娠週数と分布

	平均妊娠週数	5週未満	5-7週	8-11週	12-15週	16-19週	20週以上
初期中絶	7.7±1.7 (n=55)	1.8	92.7	5.5	0.0	0.0	0.0
中期中絶	15.6±2.8 (n=48)	0.0	0.0	0.0	54.2	33.3	12.5
総計	11.3±4.5 (n=103)	1.0	49.0	2.9	25.0	15.4	5.8

年代別妊娠週数の分布

	平均週数±SD	最少 最大	5週未満	5-7週	8-11週	12-15週	16-19週	20週 以上
10歳代	(n=14) 12.8±5.1	5-21	0.0	50.0	7.1	14.3	7.1	21.4
20歳代前半	(n=24) 12.4±4.6	4-21	4.0	32.0	0.0	32.0	20.0	8.0
20歳代後半	(n=21) 11.5±4.2	6-21	0.0	38.1	0.0	42.9	14.3	4.8
30歳代前半	(n=21) 10.2±3.9	5-19	0.0	57.1	9.5	23.8	9.5	0.0
30歳代後半	(n=18) 10.7±4.7	5-19	0.0	66.7	0.0	5.6	27.8	0.0
40歳以上	(n=5) 8.8±2.8	6-14	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0

中絶を主に希望したのは、

	初期中絶	中期中絶	総計
あなた自身	40.4	37.0	38.0
相手のすすめ	3.8	6.5	5.0
共に相談して	61.5	52.2	57.0
親のすすめ	5.8	17.4	11.0
その他	1.9	2.2	2.0

中絶の理由（中絶実施時のリスクを理解した上で）

	初期中絶	中期中絶	総計
希望しない妊娠	37.0	29.2	33.7
経済的理由	27.8	41.7	33.7
健康上の理由	18.5	6.3	12.5
結婚前の妊娠	13.0	25.0	19.2
避妊の失敗	9.3	12.5	11.5
相手の反対	7.4	12.5	10.6
職業上の理由	7.4	8.3	7.7
住宅事情	3.7	2.1	2.9
分娩後の早い妊娠	3.7	2.1	2.9
その他	18.5	16.7	18.3

今までの主な避妊法

	初期	中期	総計
コンドーム	80.0	77.1	78.8
膣外射精	27.3	47.9	37.5
オギノ式	12.7	6.3	9.6
ペッサリー	1.8	0.0	1.0
殺精子剤	1.8	2.1	2.9
ピル	1.8	2.1	1.9
IUD	1.8	2.1	1.9
未実行	0.0	0.0	0.0
無回答	10.9	6.3	8.7
その他	0.0	2.1	1.0

今回、妊娠した人の避妊法

	初期	中期	総計
コンドーム	27.3	27.1	26.9
膣外射精	27.3	31.3	29.8
オギノ式	10.9	2.1	6.7
殺精子剤	1.8	2.1	1.9
ピル	1.8	0.0	1.0
ペッサリー	0.0	0.0	0.0
IUD	0.0	2.1	1.0
未実行	3.6	4.2	3.8
その他	0.0	4.2	1.9
無回答	32.7	31.3	31.7

今後の避妊法

	初期	中期	総計
コンドーム	65.5	62.5	64.4
ピル	14.5	2.1	8.7
オギノ式	7.3	16.7	11.5
殺精子剤	7.3	6.3	7.7
IUD	5.5	2.1	3.8
ペッサリー	1.8	2.1	1.9
膣外射精	0.0	8.3	3.8
2以上の併用	20.0	25.0	23.1
その他	3.6	8.3	5.8
無回答	1.8	6.3	3.8

相手は避妊に協力的

	はい	いいえ	無回答
初期中絶(n=55)	25.5	43.6	30.9
中期中絶(n=48)	29.2	54.2	16.7
総計(n=104)	27.9	48.1	24.0

今回の妊娠で、避妊は絶対大丈夫と思った

	思った	いいえ	無回答
初期中絶(n=55)	27.3	60.0	12.7
中期中絶(n=48)	20.8	68.8	10.4
総計(n=104)	25.5	63.5	11.5

避妊具の使用に誤りがあった

	はい	いいえ	無回答
初期中絶(n=55)	18.2	38.2	43.6
中期中絶(n=48)	18.2	33.3	48.5
総計(n=104)	14.4	45.2	40.4

感情に任せた

	はい	いいえ	無回答
初期中絶(n=55)	49.1	20.0	30.9
中期中絶(n=48)	35.4	41.7	22.9
総計(n=104)	43.3	29.8	26.9

避妊について知識と自信がありましたか

	いいえ	はい	無回答
初期中絶	49.1	43.6	7.3
中期中絶	72.9	20.8	6.3
総計	60.6	32.7	6.7

経口避妊薬について

	初期	中期	総計
認可しなくて良い	10.9	6.3	8.7
認可すべきである	34.5	6.3	21.2
副作用があるので使いたくない	36.4	60.4	47.1
認可されれば使いたい	25.5	18.8	23.1
その他	0.0	6.3	2.9
無回答	5.5	6.3	5.8

妊娠に気付いたとき一番最初に思い浮かんだこと

	初期中絶	中期中絶	総計
嬉しい	7.3	22.9	14.4
困った	58.2	41.7	51.0
信じられない	27.3	27.1	26.9
怖い	5.5	4.2	4.8
その他	3.6	8.3	5.8
無回答	3.6	4.2	3.8

中絶を決めるとき相手以外の誰かの意見を参考にした

	初期中絶	中期中絶	総計
親	18.2	41.7	28.8
兄弟姉妹	12.7	10.4	11.5
医師	5.5	4.2	4.8
友人	36.4	31.3	32.7
保健婦	0.0	2.1	1.0
助産婦	0.0	0.0	0.0
看護婦	1.8	0.0	1.0
学校の先生	0.0	2.1	1.0
民生委員	0.0	0.0	0.0
誰もいない	10.9	6.3	9.6
その他	1.8	4.2	2.9
無回答	29.1	20.8	25.0

「産むつもりだった場合」何がきっかけで産むのを止めましたか？

	初期中絶	中期中絶	総計
自分の健康上の問題	7.3	2.1	4.8
胎児異常が心配になった	9.1	16.7	13.5
薬を飲んだため	7.3	10.4	8.7
放射線を浴びたため	1.8	4.2	2.9
その他	0.0	2.1	1.9
胎児異常が明らかになった	0	4.2	1.9
多胎妊娠であることがわかった	0.0	2.1	1.0
夫/パートナーと別れることになった	3.6	10.4	7.7
急に経済状態が悪化した	3.6	12.5	7.7
出産を望んでいた夫の気持ちが変わった	0.0	4.2	1.9
家族が急に病気になった	1.8	4.2	2.9
自分または夫の仕事の都合で	7.3	12.5	9.6
その他	20.0	16.7	19.2
無回答	12.7	4.2	8.7

病院を変えた理由はなんでしたか？

	初期中絶 (N=7)	中期中絶 (N=26)	総計 (N=34)
中絶をしない病院	28.6	11.5	14.7
この中絶は、ここで出来ないといわれた	14.3	53.8	44.1
こちらが秘密が守れると思った	0.0	3.8	2.9
この病院が良いと評判を聞いた	42.9	11.5	20.6
こちらが家が近いから	14.3	7.7	8.8
その他	57.1	23.1	29.4

自分の生理は順調である。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	77.3	22.7	0.0
	既婚 (n=33)	66.7	24.2	9.1
	計 (n=55)	70.9	23.6	5.5
中期中絶	未婚 (n=31)	45.2	48.4	6.5
	既婚 (n=15)	53.3	40.0	6.7
	計 (n=48)	47.9	45.8	6.3

妊娠を学校に知られたくなかった。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	36.4	18.2	45.5
	既婚 (n=33)	12.1	27.3	60.6
	計 (n=55)	21.8	23.6	54.5
中期中絶	未婚 (n=31)	16.1	35.5	48.4
	既婚 (n=15)	6.7	53.3	40.0
	計 (n=48)	12.5	39.6	47.9

自分は性感染症（性病）にかかる心配はない。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	50.0	50.0	0.0
	既婚 (n=33)	72.7	15.2	12.1
	計 (n=55)	63.6	29.1	7.3
中期中絶	未婚 (n=31)	58.1	32.3	9.7
	既婚 (n=15)	80.0	13.3	6.7
	計 (n=48)	66.7	25.0	8.3

妊娠を職場に知られたくなかった。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	68.2	22.7	9.1
	既婚 (n=33)	33.3	24.2	42.4
	計 (n=55)	47.3	23.6	29.1
中期中絶	未婚 (n=31)	61.3	25.8	12.9
	既婚 (n=15)	33.3	53.3	13.3
	計 (n=48)	54.2	33.3	12.5

自分はセックスには積極的な方だと思う。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	36.4	63.6	0.0
	既婚 (n=33)	9.1	78.8	12.1
	計 (n=55)	20.0	72.7	7.3
中期中絶	未婚 (n=31)	19.4	77.4	3.2
	既婚 (n=15)	13.3	80.0	6.7
	計 (n=48)	16.7	79.2	4.2

自分は産みたかったが反対している人を説得しようと努力していた。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	18.2	72.7	9.1
	既婚 (n=33)	6.1	66.7	27.3
	計 (n=55)	10.9	69.1	20.0
中期中絶	未婚 (n=31)	38.7	45.2	16.1
	既婚 (n=15)	6.7	86.7	6.7
	計 (n=48)	27.1	60.4	12.5

まさか自分が妊娠するとは思わなかった。

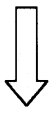
		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	72.7	27.3	0.0
	既婚 (n=33)	30.3	57.6	12.1
	計 (n=55)	47.3	45.5	7.3
中期中絶	未婚 (n=31)	58.1	38.7	3.2
	既婚 (n=15)	40.0	53.3	6.7
	計 (n=48)	54.2	41.7	4.2

中絶費用は全部一人で用意した。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	4.5	90.9	4.5
	既婚 (n=33)	12.1	63.6	24.2
	計 (n=55)	9.1	74.5	16.4
中期中絶	未婚 (n=31)	32.3	58.1	9.7
	既婚 (n=15)	0.0	93.3	6.7
	計 (n=48)	20.8	70.8	8.3

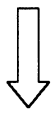
妊娠を親に知られたくなかった。

		はい	いいえ	無回答
初期中絶	未婚 (n=21)	86.4	13.6	0.0
	既婚 (n=33)	51.5	24.2	24.2
	計 (n=55)	65.5	20.0	14.5
中期中絶	未婚 (n=31)	64.5	25.8	9.7
	既婚 (n=15)	0.0	86.7	13.3
	計 (n=48)	45.8	43.8	10.4



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

わが国の人工妊娠中絶の総数は年々減少傾向にはあるが、人工妊娠中絶数と出生数との関係は長年に亘り約 1:2.7 に推移し、両者の相対的關係は一定の比率を保っている。平成 5 年の人工妊娠中絶数は 386.807 件であり、そのうち妊娠 12 週以上の中期中絶数 23.30 2 件で 16.6%を占め、これ亦、この比率はこゝ数年来ほゞ一定のまゝ推移しているのが現状である。

今回、平成 7 年 8 月より 7 ヶ月間、当院ならびに他の 8 施設で、人工妊娠中絶を希望した 104 例に前方視的にアンケート調査を行なった。中期中絶は未婚者に多く、しかも既往中絶回数も多い。そして若年ほど中絶時の妊娠週数はすゞんでいる傾向がみられた。

中絶理由は、結婚前の妊娠を含めた希望しない妊娠、経済的理由、避妊の失敗で、もともと出産の希望や予定のなかったものである。しかも避妊法はわが国の伝統的とも云うべきコンドーム、膣外射精、オギノ式などの不確実なものが主なものであり、経口避妊薬については正しい情報の不足、副作用の強調などがら許可や使用に否定的な意見が多い。そして、中期中絶では月経不順、受診の遅延、相談者の不在などをはじめ、未婚者にセックスが積極的、まさか妊娠するとは思わなかったや人工妊娠中絶の費用も大きな負担になっていることなどが明らかになった。

この様な現実をふまえ、また性行動の活発化している昨今では、もはや単なる性教育の総論に終始することなく、義務教育過程をはじめ、保健機関のなかで個別的な具体的で適切な避妊法の教育指導を実施し、希望しない妊娠を防止し、その帰結としての人工妊娠中絶を減少させていくことが必要である。そして全ての妊娠は希望された児としてこの世に生命を享受することが、今後の理想的な家族計画に必要な課題であるよ今後さらに例数を重ねて、希望しない妊娠の防止に対する具体的方策を見いだしていきたい。